

同窓会の幹事を任された佐藤は、久しぶりに高校時代の友人に電話を入れた。

「はい、原田です」

「夜分遅く恐れ入ります。佐藤と申しますが聡史さんいらつしやいますか？」

「まだ仕事から帰ってきてないんですけど・・・」

「あ、そうですか。私、聡史さんの高校時代の友人なんですけど、来月同窓会を開くことになりまして、その連絡なんです」

「そうですか。それでは戻りましたら聡史の方からすぐお電話させます。すみませんが、お名前をもう一度お願いします」

「佐藤弘と申します」

「佐藤弘さんですね。こちらのお電話番号は、聡史は存じておりますか？」

「はい、ご存知だと思いますが一応申し上げます。三四一―四六〇三です」

「三四一―四六〇三ですね、わかりました。聡史は最近忙しいようで、帰りが遅い日が多いんです。あまり遅いようでしたら明日連絡させますね」

「すみません。あいにく明日は一日中外出してしまいますので、できれば伝言をお願いしたいのですが」

「はい、どうぞ」

「来月十三日の水曜日に、七時から渋谷にあるシャトウ・ボールというレストランで同窓会を開くことになったんです。それで、その出欠を来週までに知らせてほしいとお伝えいただけますか？」

「来月十三日の七時からですね。わかりました、伝えておきます」

「よろしく願います」

数日後、原田から連絡が入った。

「はい、佐藤です」

「夜分恐れ入ります。原田と申しますが弘さんご在宅でしょうか？」

「もしもし原田か、久しぶり！」

「久しぶりだな！ この前同窓会の連絡をくれたそうだけど、十三日は残念ながら出席できそうもないんだ。最近忙しくてなかなか定時で帰れないんだよ。十三日は七時前に終わつたとしても、それから渋谷まで行つたら大分遅くなるし・・・」

「もしよかったら、途中からでも出席できないか？ みんな久しぶりに会えるのを楽しみにしてるからさ」

「そうだなあ・・・それじゃ早く終わつたら顔を出すようにしようかな。一応、店の住所と電話番号を教えてよ」

「住所は東京都渋谷区広尾三―七―一、電話番号は〇三―三六五―一―三四一、シャトウ・ボールっていうレストランなんだ。大通り沿いにあるから場所はすぐにかると思うよ」

「わかった、ありがとう」

「それじゃ、当日楽しみにしてるよ」

佐藤はそう言って電話を切り、まだ出欠のはっきりしない何人かに、再度確認の電話を入れた。